

令和6年度地域学校協働活動事業 実績

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現 状 の 数	単 位	目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	ア ウ ト カ ム の 達 成 度 に 関 する 評 価 ・ 分 析 (事業における成果、課題、改善点等)
②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	基礎学力向上のため補充学習を行っている。補充学習を受ける児童が複数おり、担任1人では、きめ細かな指導ができないことが課題となっている。	・学習支援員1人当たり年間40時間以上配分できた学校については、基礎学力向上のため、児童へのきめ細やかな指導ができ、国語や算数の勉強が好きな児童が増加している。 ・学習支援員のなり手が少ないことが課題である。	・地域在住の退職教員を活用するため、コミュニティ・スクールの学校運営協議会委員から情報を参考にするなどして、学校長は、情報集して学習支援員として協力してもらえるように要請し、学習支援員の人数を前年度より減らさないようにする。 ・学習支援員1人当たり年間40時間以上配分する。	国語や算数の勉強が好きな児童が増える。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の児童の割合(令和5年度全国学力・学習状況調査[児童質問紙])	国 62.9 算 65.4	%	国60 算60	国 60.0% 算 64.9%	3 ・学習支援員1人当たり年間40時間以上配分できた学校については、基礎学力向上のため、児童へのきめ細やかな指導ができ、国語や算数の勉強が好きな児童が目標値を上回っている。 ・引き続き、学習支援員のなり手が少ないことが課題であり、今後も情報収集に努める。
③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	いろいろな環境のなかで、家庭において学習習慣が定着していない子供がいる。	土曜日に開催している小学校区子どもセンター活動の体験活動と連携、調整をし、知、徳、体の調和のとれた子どもの育成に努めてきた。	土曜教室を実施することで、補充学習を核とした生活リズムづくりに寄与する。	学校以外で、日常的に学習を行う(主観的に学ぶほうとする)児童生徒が増える、補充学習を繰り返すことにより、基礎学力を身に付けることができる。	土曜教室に参加をした子供たちのアンケート(聞き取り)調査結果による。(参加した満足度)	50	%	55	50	2 学校によって、実施回数が異なり、参加の子供の数もばらつきが見られた。これは、例年よりもインフルエンザ流行による学級閉鎖、学年閉鎖の影響によるもの。回数の差はあるものの、参加した子供の半数くらいは、概ね学習プログラムに熱心に取り組んでいただいたと実施校の教頭先生から聞いた。